

一般社団法人 人文知応援フォーラム

令和6年度事業報告書

1. 概況

令和6年度は、従来から実施している人文知応援大会や会員例会、分科会、探訪プログラムなどに加え、国立民族学博物館を舞台とした人文知トライアル研修やフォーラムの主張を社会に発信するオピニオン部会を開催し、所期の目標である日本社会において「人文知」が広く生かされるべく、幅広く、かつ専門性も追求した事業に取り組みました。組織の強化についても、会員や役員の拡充を行い、今後の活躍が期待されることとなりました。

人文知トライアル研修では、大阪をはじめ青森、福島、東京、岡山などから様々なバックグラウンドをもつ18名が参加し、国立民族博物館において1泊2日の日程で講義や施設見学、参加者同士の議論や懇親会を実施し、人文知が活きて働くことを参加者に実感していただきました。オピニオン部会では、研究者の評価方法と民主主義のあり方をテーマに、人文知が生きて働く意味と意義について議論を深めました。

会員例会では、「人文知の伝道士・倉敷の大原謙一郎が語ること」と題して、大原謙一郎代表理事より人文知の意味と意義について語り、会員と共に考える機会となりました。分科会では、応援大会の課題を深掘し今年度応援大会の基調講演に結び付ける試みを行いました。岡山県を中心とした「探訪プログラム」では、会員のみならず一般の参加者も受け入れ、「人文知」に触れる機会を広く社会へ提供しました。

人間文化研究機構と共同開催の第5回人文知応援大会は、大会のテーマを「人工知能のアラインメントにおける人文知 ～『IKIGAI』への反響に学ぶ～」に設定し、基調講演講師に脳科学者であり東京大学大学院特任教授の茂木健一郎氏を迎え、Web参加を含め256名の参加者を得ることができました。採択された大会宣言では「AI 取り分け生成 AI（人工知能）の驚異的な進化が、一方で利便さの更なる向上への期待を生むとともに、他方で人間性の将来に対する懸念を招いている。ここで我々が留意すべきは（中略）最善の道を歩んでいく仕組みをつくること（AI アラインメント）である（中略）。人間自身もまた自らの課題に真剣に取り組まねばならない。それは（中略）人文知を吸収し、そこから得られるヒントを社会に浸透させる」ことを訴えました。

そして、これらの活動を2回発行したニュースレターにとりまとめ、会員をはじめ関係先へ広く広報しました。

2. 会議開催状況

(1) 社員総会

1) 第1回定時社員総会

日 時：令和6年6月11日（火）15：00～16：10

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 8名（内2名はWebシステムによる出席）

監 事 2名（Webシステムによる出席）

決 議 数：総議決数 14個

出席決議数 14個（会場6名、Web2名、委任状6名）

報告事項：1. 令和5年度事業報告について

議 案：第1号議案 令和5年度収支決算の承認について

（原案通り承認決定）

第2号議案 定款改正（理事定数の増員）及び理事の選任について

（原案通り承認決定）

(2) 理事会

1) 第1回理事会

日 時：令和6年5月17日（金）15：00～17：00

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 9名（内4名はWeb会議システムによる出席）

監 事 2名（Web会議システムによる出席）

議 案：第1号議案 令和5年度事業報告並びに同収支予算決算の承認について

（原案通り承認決定）

第2号議案 定款改正（理事定数の増員）及び 理事候補者の選出について （原案通り承認決定）

第3号議案 令和6年度第1回定時社員総会の開催について
（原案通り承認決定）

第4号議案 特別会員の入会承認について
（原案通り承認決定）

第5号議案 第5回人文知応援大会の開催について
（原案通り承認決定）

2) 第2回理事会

日 時：令和6年10月16日（水）10：00～11：50

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 1 2 名（内 3 名は Web 会議システムによる出席）

監 事 2 名（Web 会議システムによる出席）

議 案：第 1 号議案 第 5 回人文知応援大会について

（原案通り承認決定）

第 2 号議案 オピニオン部会― オピニオン部会第 0 回公開討論会開催について

（タイトルから公開をとることで承認決定）

第 3 号議案 次世代研修について

議長から、次世代研修について検討中の「六機関巡回次世代リーダーの人文知研修」について上程があり、説明意見交換の後、「国立民族学博物館の全面的バックアップ」の「全面的」を削除、またループリック評価については、「レベル」という文字を外すよう要請があり、意見交換の後、開催にあたっての詳細な事項は担当者に一任することを決定した。

4）第 3 回理事会

日 時：令和 7 年 3 月 1 0 日（月） 1 5：0 0～1 6：2 0

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 1 2 名（内 5 名は Web 会議システムによる出席）

監 事 2 名（Web 会議システムによる出席）

議 案：第 1 号議案 令和 7 年度事業計画（案）、同収支予算（案）について
（原案通り承認決定）

第 2 号議案 人文知研修に関する人間文化研究機構との覚書締結について

大学共同利用機関法人人間文化研究機構と当フォーラムの協力に関する覚書の更新について、議長より提案理由の説明、意見交換の後、機構の意向を反映させる方向で成文化し、文案は近藤、大原代表理事に一任することを承認可決した。

（3）企画会議、応援大会実行委員会

1）第 1 回企画会議・応援大会実行委員会

日 時：令和6年5月8日（木）15：00～17：00

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室（Web 会議併用）

出席者数：6名

協議事項：1. 令和5年度事業報告及び同収支決算について

（令和5年度事業報告及び同収支決算について説明）

2. 令和6年度第1回理事会及び第1回定時社員総会の開催について

（第1回理事会：令和6年5月17日（金）開催）

（第1回定時社員総会：令和6年6月11日（火）開催）

3. 第5回人文知応援大会の開催について

（開催日程、基調講演講師、プログラムについて協議）

4. その他

・特別会員について

・オピニオン部会、次世代研修等の状況について

2) 第2回企画会議・応援大会実行委員会

日 時：令和6年10月2日（木）14：00～16：00

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 機構長室（Web 会議併用）

出席者数：6名

協議事項：1. 第5回人文知応援大会について

2. オピニオン部会について

3. 次世代研修について

3) 第3回企画会議・応援大会実行委員会

日 時：令和7年1月23日（木）14：00～15：30

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室（Web 会議併用）

出席者数：6名

協議事項：1. 令和7年度事業計画（案）及び同収支予算（案）について

2. 第5回人文知応援大会について

（4）オピニオン部会

1) 第1回オピニオン部会

日 時：令和6年4月10日（火）13：00～16：00

会 場：学士会館 （東京都千代田区神田錦町3-28）305号室

出席者：小島明氏、ロバート キャンベル氏、木部機構長、近藤代表理事、大原代

表理事、黒須事務局長

2) オピニオン部会 第0回討論会

日 時：令和6年11月6日（水）12：30～15：30

会 場：学士会館（東京都千代田区神田錦町 3-28）306 号

司 会：大原謙一郎

出席者：ロバート キャンベル氏、木部機構長、近藤代表理事

招待参加者：大隅典子氏、中島さち子氏

（5）その他会議等

理事懇談会・懇親会

日 時：令和6年12月11日（金）17：00～20：00

場 所：アークヒルズクラブ（東京都港区赤坂一丁目12-32）「桂」の間

出席者数：11名（懇談会） 9名（懇親会）

懇談事項：1. 第5回人文知応援大会について

2. 次世代研修について

3. オピニオン部会について

4. その他

3. 事業活動

（1）第5回人文知応援大会

1) 概 要

日 時：令和7年2月23日（日）13：30～17：00

会 場：一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2丁目1-2）

主 催：一般社団法人人文知応援フォーラム

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

参加者数：194名（内会場102名、Web92名）

テ ー マ：「人工知能のアラインメントにおける人文知

～真に役立つ AI のために～」

2) 内 容

総合司会：渡辺美代子（人文知応援フォーラム理事）

挨拶・趣旨説明：大原謙一郎（人文知応援フォーラム代表理事）

挨 拶：木部暢子（人間文化研究機構機構長）

基調講演：テーマ 「人工知能のアラインメントにおける人文知

～『IKIGAI』への反響に学ぶ～

講 師 茂木健一郎氏 脳科学者、東京大学大学院 特任教授

パネル討論：ファシリテーター

茂木健一郎氏 脳科学者、東京大学大学院 特任教授

パネリスト 池上高志 東京大学大学院総合文化研究科 教授

磯野真穂 東京科学大学（前・東京工業大学）

リベラルアーツ教育研究院 教授

伊藤穰一 学校法人千葉工業大学 学長

中島さち子 株式会社 steAm 代表取締役

浅原正幸 国立国語研究所 教授

閉会挨拶・大会宣言：近藤誠一（元文化庁長官・人文知応援フォーラム代表理事・
人文知応援大会実行委員長）

3) 大会宣言

先を見通すことのできない社会変動の中で、AI取り分け生成AI（人工知能）の驚異的な進化が、一方で利便さの更なる向上への期待を生むとともに、他方で人間性の将来に対する懸念を招いている。

ここで我々が留意すべきは、AIシステムの今後の更なる開発・運営が、人間にとって好ましい目的（その価値観や倫理感に適合した目的）に向かって最善の道を歩んでいく仕組みをつくること（AIアラインメント）であることは言うまでもない。

そこではAIが人間から言語によって与えられたタスクを単なる情報としてではなく、そこに含まれる人間の身体性や社会性、集団的知能を含む「概念」として「理解」し、人間の「意図」を正しく把握することができるか否かが鍵となる。それは科学やテクノロジーと、人間が積み上げてきた知の融合がどこまで可能であるかの問題であり、ここに「人文知」が果たしうる役割を見ることができる。

従ってAIの適切な作動を確保し共存していくためには、人間自身もまた自らの課題に真剣に取り組まねばならない。それは「人間とは何か」、「どう生きるべきか」、「真の幸せとは何か」という究極の問いに答えるべく、先達が長い歴史の中で積み上げてきた学問、古典、芸術その他の叡智の総合（すなわち人文知）を吸収し、そこから得られるヒントを社会に浸透させることである。

ここに改めて人文知の普及を目的とする当フォーラムの使命の重要性を自覚し、一層の努力を継続していくことを宣言する。

4) メディア懇談会

第1回メディア懇談会

日 時：令和7年2月29日（木）16：30～17：30

会 場：文部科学省 会議室

参加者：メディア関係者3名

(2) 会員例会

1) 10月度会員例会

日 時：令和6年10月21日（土）18：00～21：00

会 場：学士会館（東京都千代田区・Webとの併用）

参加者：22名（会場16名、オンライン6名）

内 容 会務報告「人文知応援フォーラムの活動紹介」大原謙一郎

講演「人文知の伝道師はこう語っている」大原謙一郎

会終了後、交流会を開催

(3) 分科会

1) 第1回分科会

日 時：令和6年4月9日（火）18：30～20：30

会 場：学士会館（東京都千代田区・Webとの併用）

参加者：15名（会場11名、Web4名）

内 容：テーマ：第4回応援大会のリテーマ「総合知を求めて」について振り返りを行った。

＊分科会終了後、交流会開催

2) 第2回分科会

日 時：令和7年2月5日（水）18：30～20：30

会 場：AP市ヶ谷6階Cルーム/オンライン（zoomのハイブリッド）

参加者：10名（会場9名、オンライン1名）

内 容：第5回応援大会のテーマ「人工知能のアラインメントにおける人文知～真に役立つAIのために」の予習として、「AIのアラインメントにおいて日本の思想はいかにいちづけられるべきか」をテーマに議論。課

題図書として茂木健一郎著『IKIGAI：日本人だけの長く幸せな人生を送る秘訣』を事前に購読したうえで議論を深めた。

＊分科会終了後、交流会開催

(4) 人文知探訪プログラム

1) 倉敷探訪プログラム

日 時：令和6年4月13日（土）8：00～17：00

訪問先：岡山県真庭町

参加者：16名

内 容：林原美術館館長・谷一尚氏の案内の元、岡山県西北部にある伝統と先進が織りなす町真庭町を訪ねた。国指定重要文化財「旧遷喬尋常小学校」を見学後、御前酒造元辻本店では日本酒造を学んだ上で女性杜氏・辻麻衣子氏から、また世界から注目を集めるバイオマス事業のパイオニア銘建工業株式会社では木材産業の歴史、現在、そして未来について中島浩一郎社長からお話をお聞きした。

2) 倉敷探訪プログラム

日 時：令和6年11月24日（日）8：00～17：00

訪問先：岡山県奈義町

参加者：21名

内 容：林原美術館館長・谷一尚氏の案内の元、岡山県東北部にある奈義町、美咲町を訪ねた。「奈義町現代美術館」では学芸員から現代美術の楽しみ方について解説を受けての鑑賞。続いては、江戸時代から続く「奈義町横仙歌舞伎を鑑賞。最後に訪れたのは農林水産省日本の棚田百選に認定されている「美咲町大坪和西棚田」を訪れた。

(5) 人文知研修

1) 次世代リーダーの人文知トライアル研修

日 時：令和6年11月30日（土）～12月1日（日）

会 場：国立民族学博物館（大阪府吹田市）

参加者：18名

内 容：1日目

全体レクチャー：吉田憲司館長「みんなく50年の歩みを踏まえて」

班別活動：福岡正太教授、河瀬慈教授、広瀬浩二郎教授、奈良雅史教授

ワークショップ：山中由里子教授

卓話：ヤノベケンジ氏

2日目

レクチャー：福岡正太教授「世界の音楽を楽しむためにリズムを『知る』」

奈良雅史教授「マイノリティからみた東アジア」

広瀬浩二郎教授「『ダイバーシティ&インクルージョン』に
異議あり、『互換』と『他様性』を育むユニバーサル・ミ
ュージアムの実践」

見学：フォーラム型鑑賞バックヤード探究

民博の収蔵庫を見学

グループセッション

2日間にわたる研修を終え、ものの見方が変わり、人文知の新たな意
義発見があったとの意見があった。

(6) 広報活動

1) ニュースレター

【第7号】

発行：令和6年8月

概要：A4判8ページ、カラー印刷、1,000部発行

内容：巻頭エッセイ（長谷山彰「いまさらですが、「人文知」とは何か？」）

人文知の本棚（渡辺美代子 池田晶子著『14歳からの哲学—考えるた
めの教科書—』）

（鷲田清一 芳賀徹編『小出檜重随筆集』）

New TOPICS（大園隆二郎「多久古文書の村と多久古文書学校」）

人文知 NOW（村木二郎「八重山・宮古 遺跡の証言」）

フォーラムレポート（第4回人文知応援大会）

（令和5年度第2回分科会、令和6年度第1回分
科会）

（人文知探訪プログラム in 岡山）

【第8号】

発行：令和7年1月

概要：A4判8ページ、カラー印刷、1,000部発行

内容：巻頭エッセイ（大原謙一郎「フォーラムは、巷に出る」）

New TOPICS（赤坂憲雄「野の人文知は可能か」）
人文知の本棚（中島さち子 岡潔著『春宵十話』）
（田中優子 松岡正剛『日本という方法
おもかげ・移ろいの文化』）
人文知 NOW（鳥が映しだす人間文化）
フォーラムレポート（人文知探訪プログラム）
（令和6年度会員例会）
（オピニオン部会第0次討論会）
会員の声

2) ホームページの管理、運用

3) 各種 SNS による情報発信

ツイッター：@jinbunchi_forum
インスタグラム：jinbunchi.forum
フェイスブック：jinbunchi.forum

4. 組織の概要

(1) 会員

- 1) 正 会 員：19名
- 2) 賛助会員：個人 154名（174口）学生賛助会員（8名）
団体 17件（37口）
- 3) 特別会員：5名

(2) 役員（敬称略・五十音順）

1) 代表理事

大 原 謙一郎（会 長） 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館名誉館長
近 藤 誠 一（理事長） 近藤文化・外交研究所代表

2) 理 事

大 林 剛 郎 株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長
奥 正 之 株式会社三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
木 部 暢 子 大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長
草 野 満 代 フリーアナウンサー

中 島 さち子	株式会社 steAm CEO・一般社団法人 steAm BAND 代表理事
長谷山 彰	国立大学法人北海道国立大学機構理事長
板 東 久美子	元消費者庁長官
坂 東 眞理子	昭和女子大学総長
福 岡 伸 一	青山学院大学教授、米国ロックフェラー大学客員研究者
松 元 崇	国家公務員共済組合連合会理事長
虫 明 優	株式会社三楽代表取締役社長
和久井 康 明	株式会社クラレ元会長
渡 辺 美代子	学校法人日本大学常務理事
黒 須 悟 士	株式会社クロスディメンション代表取締役

3) 監 事

鴨 井 省 三	株式会社三楽監査役
前 川 晶	弁護士

4) 顧 問

加 藤 丈 夫	前国立公文書館館長（元富士電機会長）
高 梨 誠三郎	高梨学術奨励基金理事長
平 川 南	国立歴史民俗博物館名誉教授

(3) その他

1) 企画会議（事務局を除く）

大 原 謙一郎	公益財団法人大原芸術財団 大原美術館名誉館長
近 藤 誠 一	近藤文化・外交研究所代表
木 部 暢 子	大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長
若 尾 政 希	人間文化研究機構理事

2) 人文知応援大会実行委員会（事務局を除く）

実行委員長	近 藤 誠 一	人文知応援フォーラム代表理事
副実行委員長	若 尾 政 希	人間文化研究機構理事

以 上